

市展

第55回 上越市美術展覧会

2026.10/4 日 ▶ 12 月 祝

午前 10 時～午後 6 時（最終日は午後 4 時まで）

会場 高田城址公園オーレンプラザ

部門 日本画 / 洋画・版画 /
彫刻・立体造形 /
工芸・グラフィックデザイン

会場 ミュゼ雪小町（あすとぴあ高田 5 階）

部門 書道 / 写真

主催：上越市

後援：（一財）新潟日報美術振興財団

お問い合わせ：上越市美術展覧会事務局【上越市教育委員会社会教育課 電話：025-545-9254】

講評

■日本画部門

日本美術院同人、元東北芸術工科大学芸術学部美術科教授 番場 三雄

この度、上越市展日本画部門の審査にあたらせていただきました。出品者の一人一人がそれぞれのモチーフと精一杯取り組んでいる姿勢が伺えました。その中で佐藤裕子さんの「森の小屋」を優秀賞に選出いたしました。雑木林のつくる梢の色調、柔らかな緑の配色が心地よく見者に伝わってきます。この作品を基にこれからは様々な題材に取り組んでほしいと望んでいます。そして大作の作品にもチャレンジして下さい。一つだけ難を言えば画面下方の赤い花の表現です。花の面積を半分ほど減らされてはどうでしょう。

奨励賞には谷口紀子さんの「放課後の自主練習」を選ばせていただきました。子供たちの部活のサッカー練習の模様が、活き活きと伝わってきます。人物が逆光で描かれていることも成功していると思います。これからも自分の一番好きなモチーフと取り組むことを希望しています。

佳作の一点目は金谷ヒサ子さんの作品「雪中残柿」を選びました。朱色の柿の実に雪が降り積もっている詩情豊かな作品です。構図をタテに考えられたことも面白いと思います。ただ、柿と雪を美しく表現するにはクマドリの墨が少し黒すぎるように思います。主役の画面中央の柿の下のクマドリを今少し薄く工夫されてはいかがでしょうか。

佳作の二点目は博田美美さんの作品「里山の秋」を選ばせていただきました。岩絵具の特徴を生かして細部までよく描き込まれた作品だと思います。山頂の右側の斜面にも雪を描いてみてはどうでしょう。紅葉した樹木と雪を頂く山容が朗らかに伝わるとと思います。

最後になりましたが一言、小さくてかわわないのですが私はいつも写生帳を携帯しております。僅かな時間でも自分の目、手を使い美しい対象と出合ったとき、いつでも描き取ることができると考えております。

■洋画・版画部門

美術評論家、多摩美術大学教授 榎木 野衣

近年、これは世界的な傾向かもしれませんが、日本列島も自然の猛威に日々、晒され続けています。絵を描くということはひとの技ではありますが、ひととまた自然の一部であることには変わりはありません。そうであるなら、こうした自然をわたしたちの身や心で吸収し、画面へと反映されずにいるはずはありません。いや、もつといえ、個として描くことへの執着、既存の技法、教育によって繰り返される様式をこえたところから発する絵にこそ、この時代の真実の姿がみて取れるのではないのでしょうか。

今回、市展の審査にたずさわる機会を得て、このようなことをあらためて考えたのは、偶然ではない気がしています。最終的に賞の候補にのこった作品には、これは美術批評家としてのわたしの考えも多分に反映していることと思われしますが、それらの絵にはどれも、先に述べた自然と人間の感性がふれあい、せめぎあい、浸透し合うさまが、それぞれの仕方です。浮き彫りにされていた気がします。上越を舞台とし、55回も続けられてきた市展ならではの発見を、わたし自身、たくさんもたらした気がしています。

市展賞を受賞した松沢佳奈さん「楽しかった夏」は、大きさも小ぶりですし、一見して地味に感じられるかもしれませんが、目を凝らして画面に見入ってみてください。この方ならではの描き方はいかに目を引き付ける力があり、とくに鯉（なのでしうか？）に餌をまく少女の髪や目と表情、身振りには、脳裏に像として残り続けるような強い印象がありました。

優秀賞の二作は、それぞれが力作です。水嶋智子さん「いつかの窓辺」は、とりたてて変わった構図ではありませんが、ひだまりのなかで窓辺の猫が放つ視線が強烈で、いったん目があうと視線が離れなくなってしまうしました。下鳥未来さんの「あ」は、おそろしい顔を描いていますが、色使いはたいへん細やかで、そのふたつのギャップが強い魅力となっています。新潟日報美術振興賞の池上秀敏さん「天地鳴動」は、たいへん謎めいた絵です。いったいなにが起きているのか、答えのない謎かけをされたようで引き込まれます。

奨励賞、佳作にふれる余地がないのが残念ですが、それ以外の作品のなかにも魅力的な絵がたくさんありました。絵を描くということは、未知の自分と出会うことでもあり、その出会いが新たに絵を見るものへと静かな波のように伝わっていく通信手段でもあります。そういう絵は、生きています。今回はそんな絵に多く出会うことができた貴重な機会でした。

■彫刻・立体造形部門

国画会会員、愛知県立芸術大学名誉教授 大塚 道男

高田の街を散策させていただきました。数多くの野外彫刻作品は、彫刻を学び始めた学生時代のあこがれを彷彿とさせたひと時でした。

時はさかのぼり、約三百万年前頃にあったであろう顔のかたちを連想させる小石の存在があり、自然の川の流れなどによって型どられたとのことです。人類の祖先が保管、所蔵したもののように、大切にしたいものへの畏怖が読みとれます。このような所作が現代までの創造の原点として、ものづくりが永遠につながり、世界共通財産として存在していると思います。

審査についてはオリジナルな発想、構成による空間把握、素材の扱い、形に対する追求などを考慮いたしました。市展賞の中粉さん制作「冬鱈」は廃材であらうスチール材を利用し、水の中の世界をつくりだし、小さな魚と藻の構成が優れています。読みとくが楽しい作品です。佳作の佐藤さんの「不思議な壺」は樹脂板を丁寧に扱い色彩も緻密に仕上げ、タイトルどおりの変わった用のない壺が楽しい作品となっています。制作中の微妙な歪もあるようで手づくりの良さを感じます。梅津さんの「招福来福」は木材を利用した実用性をもつ作品で、制作で楽しい時を持てたことと思います。笠間さんの「みのり」は作物のみのりと同様に制作への自らのみのりが成ることを願います。沖田さんの「藻天故城への旅」は素材の寒天、タイトルと共々興味を持たせていただきました。寒天で新たなかたちに再度挑戦してほしいと思います。山田さんの「自画像」は石膏の荒づけがかたちになることを祈ります。自らをしつかり見つめて学んでください。中山さんの「模刻」は写しだす表現力は豊かなものであります。その上で中山さんの創像力を加えることを期待いたします。皆様の作品は時をかけ、手づくりの醍醐味がかがわれる作品です。素材、廃品など身近なところからの発想を大切に自らの世界をつくり出して下さい。豊かな時を持てることを願っています。

■工芸・グラフィックデザイン部門

金沢美術工芸大学デザイン科教授、日本パッケージデザイン協会理事 畠野 裕司

第55回上越市美術展覧会「工芸・グラフィックデザイン」部門の審査を担当させていただきました。

工芸とグラフィックデザインは一見すると異なる領域に見えますが、素材や技法と向き合いながら「自らの感覚や思考をどのように形にするか」という根本においては深く共通しています。今回の審査では、技術的な完成度にとどまらず、作者ならではの視点や発想、素材・技法の引き出し方、そして作品から立ち上る表現の力を大切に拝見いたしました。

【優秀賞】「闘鶏に想う（埋木絵）」二羽の鶏が対峙する瞬間の勢いと、ピンと張り詰めた緊迫感が見事に表現されています。特に、木が本来持つ木目を見極め、羽の繊細な模様として取り込んでいる点が非常に印象的でした。埋木絵（うもれぎえ）という技法を、確かな造形表現へと高めている点を高く評価いたしました。

【新潟日報美術振興賞】「やまなしへ十二月V」アルコールインクの鮮やかな発色と、色が広がり重なり合うことで生まれる奥行きが実に新鮮です。素材がもたらす偶然性を巧みに手繰り寄せながら、一つの抽象表現として完成度高くまとめています。見る人ごとにさまざまな風景や情景を想像させる魅力に溢れています。

【佳作】「一輪挿し〜長ぐつ」小品でありながら、日常のふとした一瞬を切り取ったような静かな時間と温かな物語性を感じさせます。身近なものへ注がれる作者の優しい眼差しが伝わってくる魅力的な作品です。

【佳作】「翠」火焰土器を思わせる力強い造形と、深みのある翠（みどり）色の釉薬との組み合わせが深く印象に残ります。フォルムと色彩が一体となり、脈打つような生命力を感じさせる仕上がりとなっています。

市展には、長年制作を続けてこられたベテランから、新たに表現の世界へ踏み出した方まで、多様な作品が集まります。これこそが市民公募展の何よりの魅力だと実感いたしました。

技術を磨くことはもちろん大切ですが、それと同時に「自分だからこそつくれるものは何か」を問い続けていただきたいと思います。今回の出品を一つの到達点ではなく、次の表現への出発点として、これからも自由な発想で制作を続けていかれることを心より期待しております。

書道部門

元花園・佛教大学講師、漢字文化研究会代表 原田 幹久

近年、社会は目まぐるしい変化を続けています。とりわけ、毎日のようにテレビや雑誌などで（ＡＩ）に関する報道がなされ、文章や絵画など、さまざまな分野で（ＡＩ）に問い、評価を求める時代となりました。

便利な一方で、使い方によっては、一人ひとりが持つ個性や創造性を失うことにもなりかねません。

このような時代だからこそ、書道は、昔ながらの筆と墨による手書きの表現を大切にしたいものです。古典を基本として、日頃の研究と鍛錬を積み重ね、その人にしか表せない個性豊かな作品を生み出すことが大切です。

上越の地は、全国的に見ても書道が盛んな地域の一つです。今回の書道展にも、皆様の期待にたがわず、実に多種多様な個性豊かな作品が数多く見られました。

審査にあたっては、作品を書体・書風の各部門に分け、それぞれの分野において優れた作品を選出しました。さらに、その中から特に秀でた作品を選び、次のような結果となりました。

○市展賞 塚田恵月さん

淡い墨の中に墨彩を放つ、新鮮な一作です。大きな筆によるダイナミックで躍動感のある表現は、恵月さん独自の魅力に満ちています。

○優秀賞 東山翠華さん

行書による対幅作品は、字形、用筆と共にバランスのよい作品です。

○奨励賞 五十嵐良子さん

かな作品は、繊細でありながら妙趣があり、伸びやかな線質に強さを感じられます。

○奨励賞 岩崎恵華さん

安定のある隸書作品には、日々の鍛錬の積み重ねがうかがえます。

○新潟日報美術振興賞 矢澤高雲さん

漢字かな交じりの作品は飾り気なく、肩の力が抜けたような自然な表現で秀でた作品です。次に佳作5点です。

沢田優心さんの作品は余白を生かし、墨色の良い作品です。加藤彩光さんの作品は、美しい線が特徴で筆の運びの良い作品です。吉崎星桜さんの作品は、多字数ながら安定感と流れの美しさがある秀作です。綿貫桜弓さんの作品は、長鋒筆ながら動きのある作品です。今後に期待したい秀作です。相澤益行さんの武将の花押印は大変珍しい一作です。

日々の研鑽によって生み出された作品は、人の心に響き、深い感動を与えます。その感動は人の記憶に刻まれ、未来に生き続けます。

次回もぜひ、創作意欲あふれる作品を発表されますことを願っております。

写真部門

日本写真家協会前会長、ドキュメント写真作家 野町 和嘉

初めて担当させていただいた審査でしたが、一通り作品を観てまず感じたのは、バラエティに富んだ、そして完成度の高い作品がそろっているな、という印象でした。そして選考後の講評会では、ベテランに混じって、若い方たちが各自の展覧作品を持ってきて、選評など熱心に質問をしてくれ、写真のこれからを思っ、たのもしく感じました。

○市展賞 「あぶない!!」

山古志の闘牛行事で、突進してくる暴れ牛の気迫に圧倒され、尻餅をついた一人の若者。目の前に迫りくる牛に、恐怖の感情が満面にあふれその表情、飛び散る泥、左側から伸びた何本もの腕、一瞬にして起こった緊迫感を見事に結実させた傑作です。

○優秀賞 「光のゆりかご」

巣立ちも近いまでに育った2羽のコウノトリの雛と、巣作りの材料の藁を運んで戻った一羽の親鳥。やや霞がかかっているのか、穏やかな日の出の情景が、素晴らしい雰囲気を出しています。

○奨励賞（6点）

・「ハイ・ポーズ」

スマホがすっかり根付いた現代を象徴しています。写真館での家族写真撮影の合間に、控え室のようなところで撮った和やかな一枚。雑然とした背景もいいですね。

・「夜空に乾杯」

野尻湖上空に広がる満天の星空です。対岸の街の明かりの映り込みと、北極星を中心に巡る星空を、多重露光で見事に表現しています。画面構成が完璧で、星空の撮影に熱意を注ぐ作者の技量と意思が結実した作品です。

・「光の終焉」

イカ釣り船などの集魚灯でしょうか、漂着していた電球を夕景を重ね撮りすることで、不思議なメルヘンの世界を演出しています。

・「まなざし」

糸魚川市「けんか祭り」で、2階の控え室のお稚児さんをモノクロ表現にしたことで成功した作品です。頭上の垂れ幕が空間を締める適度な効果を發揮しています。

・「雨の橋渡り」

彼岸花の花びらに連なる美しい滴。そして蜜を求めてか、一匹の蟻がその花を渡っています。背景の明暗差も作品に奥行きを与えています。

・「稚児さん」

糸魚川市の「おててこ舞」のお稚児さん。かぶり物の金色の輝きが、やや暗めの画面で華やかなアクセントになっています。

○新潟日報美術振興賞 「群れの共鳴」

佐渡汽船のフェリーに、乗客が餌付けをしていることで、間近まで迫ってくるウミネコを接近撮影。17歳の高校生の、写真と向き合う熱意を評価して。

市展賞

洋画・版画部門



「楽しかった夏」松沢 佳奈

彫刻・立体造形部門



「冬鰯」中粉 規男

書道部門



「遊」塚田恵月

写真部門



「あぶない!!」田中正輝

優秀賞

日本画部門



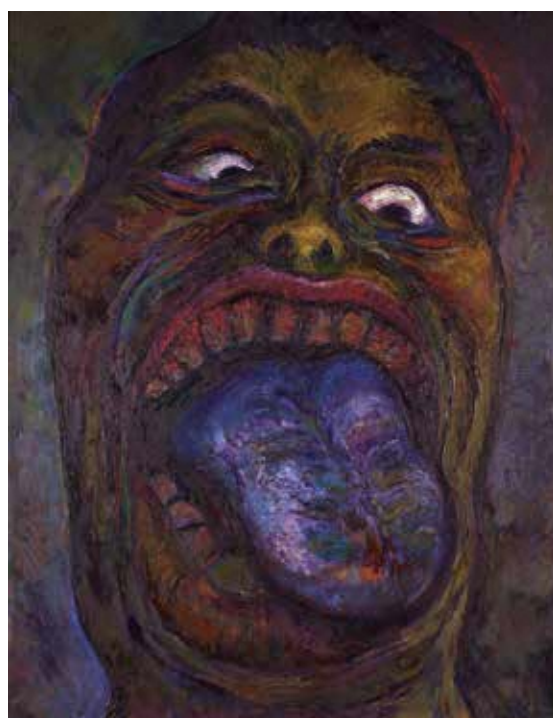
「森の小屋」佐藤 裕子

写真部門



「光のゆりかご」金子 和博

洋画・版画部門



「あ」下鳥 未来

書道部門



「劉滄詩」東山 翠華



「いつかの窓辺」水嶋 智子

「闘鶏に想う（埋木絵）」
高橋一興



洋画・版画部門



「ちびっこギャング見参！」菅井伸一



「めばえのチカラ」深石めぐみ



「放課後の自主練習」谷口 紀子

日本画部門



「千の物語」菅井マリアルビー

奨励賞

洋画・版画部門



「夜のはじまり」西島和男



「出発」西脇直行



「残されたまうのディーゼル発動機」
水澤善男

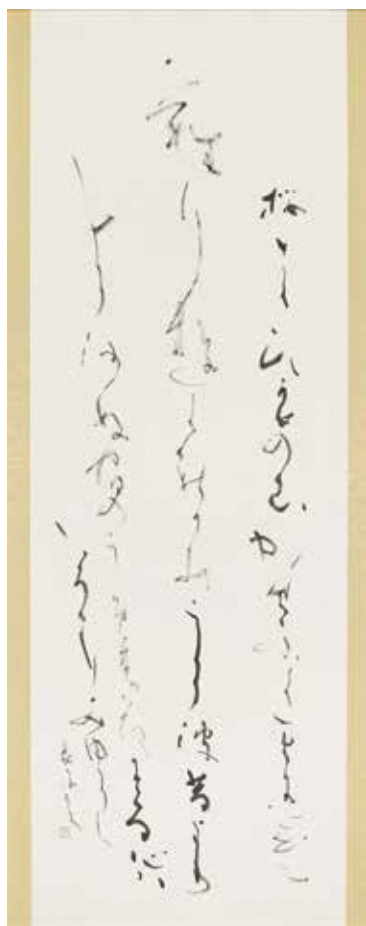


「女三人 木切り仕事」
藤永照子

書道部門



「劉廷芝詩」岩崎恵華



「千載和歌集より」五十嵐良子



「夜空に乾杯」 宮澤 光廣



「まなざし」 佐藤 忠博



「光の終焉」 滝澤 忠



「稚児さん」 渡辺 信行



「ハイ・ポーズ」 市村 常夫



「雨の橋渡し」 関川 雅夫

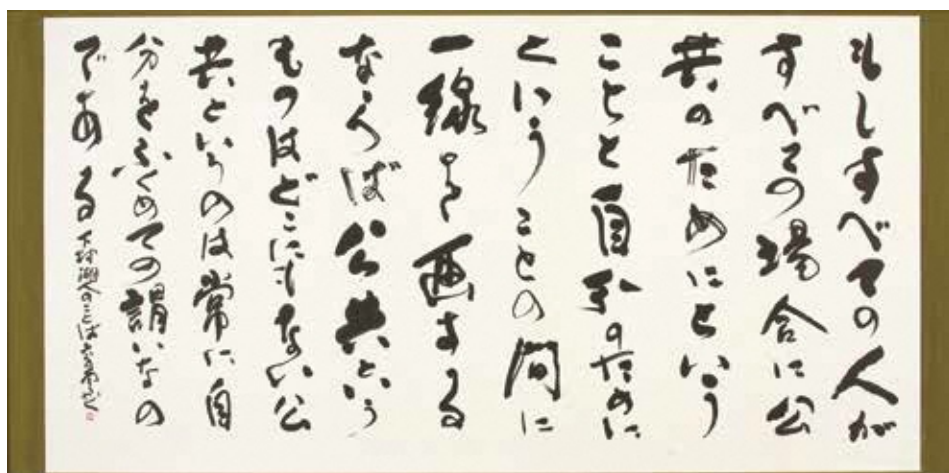
新潟日報美術振興賞

洋画・版画部門



「天地鳴動」 池上 秀敏

書道部門



「青年の思索のために」 矢澤 高雲

写真部門



「群れの共鳴」 ザミエル ギル ロサレス

工芸・グラフィックデザイン部門



「やまなし<十二月>」 細井 一貞

日本画部門

洋画・版画部門

佳作

⑪ JOETSU CITY ART EXHIBITION 2026

[illegible]

工芸・グラフィックデザイン部門

1	BUSINESS 2109	宮澤輝成	優秀賞	一点
2	平和を世界の子どもたちへ	長 瑛里佳	佳作	一点
3	OOGATA TOWN	竹内裕司	佳作	二点
4	東京浅草	佐藤礼子		
5	蕩然	竹内一周		
6	四季の野菜と音楽と	松縄和子		
7	わが家の謙信公祭	松縄和子		
8	雪かき	佐藤孝雄		
9	型染「出かけよう野へ!」	中島晶子		
10	布花リース	小山富美子		
11	ダイオウイカとでっけえカニ	下鳥幸彦		
12	銀河鉄道の夜	細井一貞		
13	やまなし八十二月V	細井一貞		
14	新能	上坂みどり		
15	般 若	平田照雄		
16	虎と松竹梅	川上貞男		
17	闘鶏に想う(埋木絵)	高橋一興	無鑑査	
18	Boy キーウェイ	山田結花里	優秀賞	
19	翠	柄内清花	佳作	
20	一輪挿しと長ぐつ	岡 龍夫	佳作	
21	米 俵	岡 龍夫		
22	置 物	小嶋多壽子		
23	置 物	小嶋多壽子		
24	樺線文拭漆盛器	大藏豊彦	運営委員	
25	白磁鉢	兪 期天	運営委員	

書道部門

1 孫逖詩	伊藤香苑	一点
2 臨 孔子廟堂碑	黒田彩葉	一点
3 臨 曹全碑	加藤真央	一点
4 宿疎陂驛	中島幸雨	一点
5 飛	服部水蓮	一点
6 山	星野詩子	一点
7 臨 祭伯文稿	山岸清音	一点
8 臨 自書告身帖	石村彩音	一点
9 臨 集王聖教序	児珠清華	一点
10 崔顥詩	早坂彩華	一点
11 臨 九成宮醴泉銘	佐藤海希	一点
12 臨 董其昌・行草書卷	森本登和	一点
13 臨 石門頌	千田沙織	一点
14 少年行	三輪翠雨	一点
15 妙	古川紫光	一点
16 酬慈恩文郁上人	池田惠雨	一点
17 臨 光明皇后・樂毅論	塚林千晶	一点
18 清水	富田麟光	一点
19 白居易詩	君波艸華	一点
20 史記・秦始皇本紀より	捧波萌慧	一点
21 劉長卿詩 秋日登吳公台上寺遠眺	石井翠琉	一点
22 訓読 赤壁賦	小林愛佳	一点
23 陶淵明詩	清水桃花	一点
24 紅霞	室岡游紫	一点
25 杜甫詩	柳沢朱里	一点
26 杜甫詩	保坂徳専	一点
27 山里	石川瑞光	一点
28 臨 屏風土代	島倉小楠	一点
29 臨 皇甫誕碑	木村悠愛	一点
30 黄山谷詩	伊藤弥生	一点
31 寛	坂口壽岳	一点

市展賞 一点
優秀賞 一点
奨励賞 二点
新潟日報美術振興賞 一点
佳作 五點

32 たまゆらに	大滝末光	無鑑査
33 陳緝詩	小林玄岳	無鑑査
34 隸書 乙瑛碑	梅沢美音	無鑑査
35 晶子のうた	相羽多仁子	無鑑査
36 寄呉廷圭 王淮	吉崎星桜	無鑑査
37 武將花押	相澤益行	無鑑査
38 いさり火	加藤彩光	無鑑査
39 波	沢田優心	無鑑査
40 良寛詩	綿貫桜弓	無鑑査
41 李白詩	野口桜雅	無鑑査
42 劉廷芝詩	岩崎恵華	無鑑査
43 千載和歌集より	五十嵐良子	無鑑査
44 遊	塚田恵月	無鑑査
45 劉滄詩	東山翠華	無鑑査
46 「青年の思索のために」	矢澤高雲	無鑑査
47 はたての雲	太田葉光	無鑑査
48 朱楷詩	藤本歩希	無鑑査
49 陶淵明詩	加納江環	無鑑査
50 王漁洋詩	竹田香蘭	無鑑査
51 花見れば	星野美光	無鑑査
52 白居易詩	佐藤靖華	無鑑査
53 允禧詩	青柳江雲	無鑑査
54 張文光詩	宮崎萩華	無鑑査
55 樂哉無一事	横山星翠	無鑑査
56 題慈恩塔	無鑑査	無鑑査
57 いろは歌	無鑑査	無鑑査
58 凸凹人生	無鑑査	無鑑査
59 踐言	無鑑査	無鑑査
60 芭蕉の句	無鑑査	無鑑査
61 臨 関戸古今集	無鑑査	無鑑査
62 李白詩	無鑑査	無鑑査
63 王勃詩句一節	無鑑査	無鑑査
64 杉みき子詩 花の季節	無鑑査	無鑑査
65 紅葉	無鑑査	無鑑査
66 得歡當作楽	無鑑査	無鑑査
67 良寛のうた	無鑑査	無鑑査
68 朱楷詩	無鑑査	無鑑査
69 鐘	無鑑査	無鑑査
70 猫	無鑑査	無鑑査
71 重遊終南	無鑑査	無鑑査

写真部門

72 森羅萬象	無鑑査	佐藤寶山
73 深遠	無鑑査	山口青苺
74 遠藤笑の言葉	無鑑査	藤田江扇
75 雀の子	無鑑査	小林智峰
76 勁草（艸）	無鑑査	宮澤恵雲
77 授人以魚不如授人以漁	無鑑査	手塚星染
1 関田こうだいじ	市展賞 一点	市村常夫
2 あわゆき道中：やらずの雪	優秀賞 一点	北川要
3 ボールより彼女	奨励賞 六點	山岸秀司
4 親子で観運會	優秀賞 一点	飯田慶二
5 馬上は上杉謙信公	奨励賞 六點	飯田慶二
6 グレンデにて	優秀賞 一点	井上国男
7 初祭	奨励賞 六點	小川秀雄
8 狛犬と杉の木	市展賞 一点	宮川生央
9 私、どうしたらいいの？	奨励賞 六點	松本栄規
10 シンクロニシティ	優秀賞 一点	岸田千枝子
11 興味と関心	奨励賞 六點	岸田千枝子
12 時代をつなぐ鉄路	市展賞 一点	柳澤望雄
13 塙へ	優秀賞 一点	鈴木利一
14 雨上がりのご褒美	奨励賞 六點	大倉真美子
15 梅雨晴間のコチドリ親子	市展賞 一点	木村康司
16 夜の公園	優秀賞 一点	杉野健二
17 輝く棚田	奨励賞 六點	関川雅夫
18 堪え忍ぶ	市展賞 一点	金子和博
19 我が庭にようこそ	優秀賞 一点	竹田直樹
20 立山周回	奨励賞 六點	室岡由美子
21 夕陽の描いた物語	市展賞 一点	鳥山和伸
22 祇園の調べ	優秀賞 一点	池田弘
23 秋晴れ	奨励賞 六點	松縄武彦

市展賞 一点
優秀賞 一点
奨励賞 六點
新潟日報美術振興賞 一点
佳作 八點

JOETSU CITY ART EXHIBITION 2026 ⑭

第55回上越市美術展覧会 出品点数及び入選点数

部 門		公 募 作 品					無鑑査作品	
		出品者数 (人)	出品点数 (点)	入選点数 (点)			出品者数 (人)	出品点数 (点)
					入賞	佳作		
1	日 本 画	15	16	16	2	2	6	6
2	洋 画 ・ 版 画	98	110	110	11	10	12	12
3	彫 刻 ・ 立 体 造 形	7	7	7	1	1	1	1
4	工芸・グラフィックデザイン	18	22	22	2	2	3	3
5	書 道	52	52	52	5	5	25	25
6	写 真	82	108	108	9	8	7	7
合 計		272	315	315	30	28	54	54

※入賞・佳作は、入選点数の内数

第55回上越市美術展覧会 作品鑑賞会のお知らせ

市展会期中、運営委員による作品鑑賞会を下記のとおり開催します。ぜひ、ご来場ください。

期 日	時 間	部 門	講師 (敬称略)	会 場
10月4日(日)	13:30～14:30	日本画	川崎日香湊	オーレンプラザ
	14:30～15:30	洋画・版画	堀川 紀夫 津幡 潔	オーレンプラザ
10月10日(土)	13:30～14:30	書道	押木 秀樹	ミュゼ雪小町
	14:30～15:30	写真	関 敏雄	ミュゼ雪小町
10月11日(日)	13:30～14:30	工芸・グラフィックデザイン	大藏 豊彦	オーレンプラザ
10月12日(月・祝)	11:00～12:00	彫刻・立体造形	松尾 大介	オーレンプラザ

〔審査員〕

日本美術院同人、
元東北芸術工科大学
芸術学部美術科教授
番場 三雄
(日本画)

美術評論家、
多摩美術大学教授
榎木 野衣
(洋画・版画)

国画会会員、
愛知県立芸術大学名誉教授
大塚 道男
(彫刻・立体造形)

金沢美術工芸大学デザイン科教授、
日本パッケージデザイン協会理事
畠野 裕司
(工芸・グラフィックデザイン)

元花園・佛教大学講師、
漢字文化研究会代表
原田 幹久
(書道)

日本写真家協会前会長、
ドキュメント写真作家
野町 和嘉
(写真)

〔運営委員〕

委員長
堀川 紀夫
(洋画・版画)

副委員長
小林 充也
(日本画)

川崎日香湊
(日本画)

津幡 潔
(洋画・版画)

松尾 大介
(彫刻・立体造形)

大藏 豊彦
(工芸・グラフィックデザイン)

畠 期天
(工芸・グラフィックデザイン)

押木 秀樹
(書道)

小林由希子
(書道)

関 敏雄
(写真)

新井 浩樹
(写真)

阿曾 晋
(学識経験者)

